

美ら島ぬ宝

沖縄県立首里高等学校三年 大浜 勇弥

海原のきらめき
押し返すコバルトブルー
幾年経とうとも
あの海は悲劇を忘れない

埋めたてられる海
そこに住む者の気も知らずに
汚ひがされる大地
プロペラ音が轟き落ちる

山林のざわめき
うねりゆれる常磐色
時代を越えても
あの山は惨劇を覚えている

戦前の海は悲劇が訪れることを予想していたらどうか
戦前の山は惨劇が訪れることを予感していたらどうか
戦前の風は悲惨が訪れることを想定していたらどうか
自然は既に経験した

南風のささやき
海と山に触れた薄浅葱
時間をまたいでも
あの風は記憶している

私を含む若者は戦争を知らない
突然襲いかかる悲惨を私達は体験していない
日常が激変することを私達は見ていない
戦後と違う現在いまも
未来では戦前と扱われているかも知れない

フェンスに囲まれた大国
地図にも載らない場所がある
現在いまでも残る戦争の傷跡
私達は学ばなければならぬ

あの日、あまたの戦艦が海の彼方からやってきた
砂浜を埋める迷彩色

自然は既に経験した
私達は先人達の痛みを学ぼう

こぼれる油が海を変える
尊い自然の変化
海に身を投げる島の先人達
本当は彼等を助けたいのに
海は私達に教えてくれる

自然は既に経験した
今度は私達が後生に伝える番だ
海原のきらめき
波がかき消してもくれない

あの日、悲しみを落とすに戦闘機が山を越えて
やってきた

山林のざわめき
枯れても生えても傷は残っている

砕ける山や森林
怒濤の空襲が山を変える
身を削っても先人達を守り抜く
熱い、苦しい、さようなら
自然の豊かさから悲しみへ
山は私達に教えてくれる
あの日、銃撃や砲撃が風の中を切りさいた
迫りくる鉄の暴風

南風のささやき
吹きとばしてもくれない
今日も鳴り響くプロペラ音
学び舎の上を越える
空を走る戦闘機
点になっても音は轟く

緊迫状態が風を変える
雨に打たれる先人達
雨の予報だと伝えたい、危険な雨が降ると教えた
いのに

自覚しなければならぬ
悲劇と隣り合わせであることを

火薬の臭いを交えて
風は私達に教えてくれる

保たなければならぬ
自然や先人達に支えられたこの沖縄を

この島にある尊い自然
今も破壊は続いている